

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1025414
園名	駿河台大学第一幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然とのかかわり・観察

<テーマの設定理由>

園庭や花壇、プランターでの栽培を通して自然を身近なものに感じることのできる環境の中で、友達や教師と一緒に自然物にかかわりながら観察したり調べたり、子どもの「どうしてだろう?」「なんだろう?」という疑問をもつ力、興味の幅を広げていく力を育てていきたい。

2. 活動スケジュール

- ・虫や葉っぱ、花など身近な自然物に触れ、興味や関心をもつ。(4月～)
- ・見つけたものを昆虫ケースや観察ケースに入れて観察する。(9月～)
- ・虫メガネや顕微鏡で見たり、図鑑で調べたりすることで様々なことを知ったり気付いたりする。(9月～1月)
- ・自然物とかかわる中で出てきた気付きや発見を友達や教師と共有する。(9月～1月)

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○活動のために準備した素材や道具

顕微鏡、デジタルカメラ、メモリーカード、虫メガネ、図鑑、紙芝居、虫取り網、観察ケース、昆虫ケース

○環境の設定

虫取り網、観察ケース、昆虫ケース…子どもが興味をもった時にすぐに手にとって使えるような場所に置いた。

顕微鏡…いつでも好きな物を自由に見られるような場所に設置した。

活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

園庭遊びの時間になると、保育室前にかけている昆虫ケースや観察ケースをもって子どもたちは園庭の草むらのところに行き、ダンゴムシ探しをしていた。素手で触れる子どもがいたり、スコップを使って捕まえたりしている子どもがいる中で「僕は無理だよー。A君捕まえてよ！」「いいよ！」という会話が生まれていた。捕まえたダンゴムシのために観察ケースに土を入れて、毎日観察している子どもがいた。

花壇には蝶が飛んでいたのので、虫取り網を用意すると子どもも自身で花壇に持っていき、「そっちにいる！」「こっちこっち！」と言いながら友達と虫取りを楽しむ姿も見られていた。

普段あまり見られないような昆虫を見つけると「あ、なんだこれ！」と昆虫ケースに入れ、図鑑で探しながら自分たちでその昆虫がなんという昆虫なのか興味をもって調べる姿が見られていた。図鑑で似た昆虫を見つけると「先生！これかも！！」と嬉しそうに教師や友達に話していた。

散歩に行った際に、園舎横の敷地で色々な形や模様の石、葉を見つけた。幼稚園に帰ってきた時に顕微鏡を出しておいたことで覗き込んで、「ザラザラしてる！」「小さく黄色が混ざってる！」など気が付いたことを周りの友達や教師に伝えていて、それを聞いた友達も「見せて見せて！」と興味をもって観察していた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・年少児の頃から親しみをもって探していたダンゴムシや蝶々などの生き物が観察ケースや昆虫ケースを購入したことで、捕まえて毎日観察できるようになり、日々新しい発見をしながら興味を広げていく子どもの姿が見られるようになった。
- ・昆虫ケースや観察ケースに入れての観察に加えて、顕微鏡を使って細かい部分まで観察ができたことで、こんなものも見てみたい！という気持ちが子どもたちに芽生えていて、これまで以上に自然物に対して、興味関心をもってかかわるようになった。
- ・図鑑や顕微鏡で調べたり観察したりして、自分が気が付いたことを近くにいる友達や教師に伝える姿が見られ、遊びの中での会話も多くなっていった。